

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者がん診療ガイドラインの普及・検証、体制整備に向けた研修会の実施

研究分担者 渡邊 清高 帝京大学医学部内科学講座 病院教授

要旨

高齢者のがん医療ガイドライン普及にあたっては、高齢者におけるがんの現状、病態や病状の特徴（特に非高齢者との対比において）、老化に伴う身体的・精神心理的・認知的な課題、診断や治療の基本的な考え方、社会・経済的な背景などを認識することが求められる。幅広い特性と個人差・社会的背景を有する高齢者における質の高いがん医療の普及には、高齢者の特性を踏まえた高齢者機能評価（GA）と、非高齢者を対象とした臨床研究によって提示されることの多いエビデンス、そして医療・介護・福祉を取り巻く社会的環境に基づく議論が必要である。高齢者のがん医療テキストブックの項目をもとに、高齢者を取り巻く環境において、さまざまな医療・介護・福祉に関わる専門職のもとで実践されるための、コンピテンシー（高齢者がん診療に求められる基本的な資質・能力）およびカリキュラム（教育研修プログラム）として必要な要素を抽出した。プログラムのうち、GAに関するテーマをもとにがん診療連携拠点病院の医療従事者を対象としたオンラインでの研修会を開催し、全国の1,300を超える事前申し込みを得て実施、545人に研修参加証明書を発行した。参加者からのフィードバックでは、GAの実践や現場での浸透を期待して、各施設や地域の実情に即した導入プロセスや事例の共有、より広い関係者の参画を期待する声が寄せられた。

A. 研究目的

身体的、精神心理的そして社会的にさまざまな背景を持つ高齢者において、がんを患ったときに、ハイリスク・脆弱で機能障害を抱える患者から、心身の状態が良好な患者まで幅広い。高齢者における質の高いがん医療の普及には、高齢者の特性を踏まえた高齢者機能評価（GA）と、非高齢者を対象とした臨床研究によって提示されることの多いエビデンス、そして医療・介護・福祉を取り巻く社会的環境に基づく議論が必要である。高齢者のがん診療ガイドライン（GL）が普及し、がん診療がなされるがん診療連携拠点病院などのがん治療施設、慢性期や療養期を支える医療機関や介護福祉施設、自宅など在宅環境において、さまざまな医療・介護・福祉に関わる専門職のもとで実践されるには、普及や浸透のプロセスが重要である。

GLの普及にあたっては冊子体による公表だけでなく、ウェブサイトでの公開、がん関連学会・団体への紹介、それをもとにした各学会のガイドライン委員会にがん種ごとの高齢者に関するGLやコンセンサス策定を働きかけることが重要となる。がんに関わる医療者にGLの周知・普及を図るには、オンデマンド形式でいつでも誰でも視聴できるようなe-learningプラットフォームの活用や、ソーシャルネットワーク・サービス（Facebook、Twitter、YouTubeなど）の利用も効果的である。がんを診療しているがん診療連携拠点病院にとどまらず、高齢者の慢性疾患の診療を行っている医療機関へのアプローチも、患者の診療やケアの道筋を考えると重要と言える。本検討では、令和3年度までの検討および新たに作成された高齢者がん診療ガイドラインに基づき、研修会を開催し、その

効果を分析、その結果に基づくGL普及に向けて必要な要素、および高齢者がん医療の現場での普及や浸透プロセスに求められる要点をまとめることとした。

B. 研究方法

- 1) オンラインでのGLの普及に向けた研修会・当研究班主催の「高齢者のがんを考える会議8 がん診療連携拠点病院「高齢者がん診療ガイドライン」研修会（2023年3月開催）」における議論では患者・家族の立場のパネリストを交えて、高齢者におけるがん医療提供体制、介護・福祉を含めた支援体制について議論した。
- 2) 高齢者がん医療GL普及に向けた研修プログラムに必要な要素
 - ・高齢者がん医療GL、および上記議論を踏まえ、高齢者のがん診療に加え、高齢者全般の医療やケアに関わる関係者に向けたGLが普及するための研修プログラムのあり方、必要な要素についての検討を行った。

C. 研究結果

- 1) オンラインでのGLの普及に向けた研修会「高齢者のがんを考える会議8 がん診療連携拠点病院「高齢者がん診療ガイドライン」研修会（2023年3月開催）」では、本研究分担者、高齢者がん医療協議会、JASCC、老年医学会の委員、会員が参加して議論した。2022年に公開した、高齢者がん診療ガイドラインのうち、CQ1：高齢がん患者における高齢者機能評価（GAもしくはCGA）に関する解説に続き、質の高い高齢者のがん医療の普及に向けた取り組みの紹介、さらに、患者・当事者の視点から、GLへの期待が寄せられた。関連診療科が連携し、老年腫瘍学・高齢者のがん医療領域の確立と診療における協力体制の確立が必要であることを確認した。

内容はZoomウェビナーで開催するとともに、YouTubeでのライブ配信およびオンデマンド配信がなされた。(別紙資料)

2) 高齢者がん医療GL普及に向けた研修プログラムに必要な要素

高齢者のがん医療GL普及にあたっては、高齢者におけるがんの現状、病態や病状の特徴(特に非高齢者との対比において)、老化に伴う身体的・精神心理的・認知的な課題、診断や治療の基本的な考え方、社会・経済的背景などを認識することが第一歩となる。さらには、高齢者機能評価(GA)とGAに基づくがん診療の実際について、具体的な事例を含めて提示することが求められる。こうしたことから、高齢者のがん医療テキストブックでは、以下の項目を研修に必要な要素としてまとめた。

●高齢がん患者の特徴

- 1) 疫学
 - A. 病因
 - B. 高齢者に多いがん、予後
- 2) 症状
- 3) 個人差
- 4) 臓器・細胞レベル
 - A. 細胞老化・免疫老化とがん化の関係
 - B. がんが及ぼす影響ーカヘキシア
 - C. PK/PD

5) 社会・経済的背景

●高齢者のがん診療の実際

- 1) 機能評価
- 2) 診断・検査
- 3) 機能評価に基づく目標設定
- 4) 機能評価に基づく治療法の選択
 - A. 意思決定支援
 - B. 手術
 - C. がん薬物療法
 - D. 放射線治療
- 5) 治療による悪化を防ぐアプローチ
 - A. 栄養面(NST)
 - B. 運動面(リハビリ)
 - C. 心理・精神面
 - D. 歯科口腔ケア
- 6) 高齢者に多い併発症への対応
 - A. 糖尿病
 - B. 循環器疾患
 - C. 腎臓病
 - D. その他

●がんを抱えながら生きる高齢者への対応

- 1) QOL (quality of life)
 - A. 栄養療法
 - B. 運動療法
 - C. 緩和療法(痛み)
- 2) QOD (quality of death)
 - A. ACP (advance care planning)
 - B. NBM (narrative based medicine)
 - C. 保険制度の利用

●老年腫瘍学の教育・研修制度

●老年腫瘍学領域における研究手法

- 1) 老年腫瘍学領域における評価項目
- 2) 実例紹介

以上の項目を踏まえ、高齢者のがん診療に携わる医療者が修得すべきコンピテンシー(高

齢者がん診療に求められる基本的な資質・能力)およびカリキュラム(教育研修プログラム)として、以下の要素が挙げられる。

●高齢者がん診療に求められる基本的な資質・能力

- ・高齢者がん診療の心構え
- ・患者の視点
- ・コミュニケーション
- ・チーム医療
- ・科学的根拠
- ・高齢者がん診療の実践能力
- ・研究能力
- ・自己研鑽
- ・教育能力

●高齢者がん診療のカリキュラムの構成要素

- ・高齢者がん医療の基本的事項
- ・高齢者がん医療総論・各論
- ・高齢者を取り巻く医療と社会
- ・高齢者がん医療の研究

質の高い高齢者のがん医療を提供する専門職の到達すべき目標を策定し、必要なプログラムを企画・立案することが求められる。以下に、例を挙げる。

●高齢者のがん診療の実践に求められるコンピテンシーの例

- ・高齢者がん医療におけるチームアプローチの必要性を説明できる
- ・当事者・支援者・経験者のニーズを多面的に評価できる
- ・患者の心理・社会的背景を踏まえ、関係性を築き意思決定を支援できる
- ・医療の質と安全の管理の面から、良質で安全な高齢者がん医療を提案できる
- ・専門職として求められる社会的役割を説明できる
- ・患者と家族との対話を通じて、人間関係を構築できる
- ・さまざまな専門職種と連携し良質な医療を提供できる
- ・(医師・看護師・薬剤師・メディカルスタッフの視点で)がん医療を提案・実践できる

D. 考察

高齢者のがん診療のコンピテンシーに関する到達目標に基づき、教育研修プログラムの立案が可能となる。今後は具体的なテーマ(大腸がん医療、介護と医療の連携、など)において、どのようなアウトカムが求められるか、関係者による議論と試行プログラムでの評価検証をもとに、均てん化に向けた検討や議論が進むことが望まれる。これによって、医療現場でのGLの活用が促される。最も重要なことはGLの周知ばかりでなく、実際に使われ評価を受け、今後の改善(GL改訂、教育プログラムの精緻化)、普及につなげることである。今後アンケートなどを活用してその普及度を調査するとともに、評価・検証の枠組みが重要と考えられる。

E. 結論

高齢者のがん医療テキストブックの項目を

もとに、高齢者を取り巻く環境において、さまざまな医療・介護・福祉に関わる専門職のもとで実践されるための、コンピテンシー（高齢者ががん診療に求められる基本的な資質・能力）およびカリキュラム（教育研修プログラム）として必要な要素を抽出し、之に基づきオンラインのウェブセミナーを開催した。今後の普及や均てん化に向けて、地域や医療体制の状況を踏まえた個別具体的なモデル研修会を実践していくことにより実効性を高めていくことが求められる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Hidenori Kage, Aya Shinozaki-Ushiku, Kazunaga Ishigaki, Yusuke Sato, Masahiko Tanabe, Shota Tanaka, Michihiro Tanikawa, Kousuke Watanabe, Shingo Kato, Kiwamu Akagi, Keita Uchino, Kinuko Mitani, Shunji Takahashi, Yuji Miura, Sadakatsu Ikeda, Yasushi Kojima, Kiyotaka Watanabe, Hitoshi Mochizuki, Hironori Yamaguchi, Yoshimasa Kawazoe, Kosuke Kashiwabara, Shinji Kohsaka, Kenji Tatsuno, Tetsuo Ushiku, Kazuhiko Ohe, Yutaka Yatomi, Yasuyuki Seto, Hiroyuki Aburatani, Hiroyuki Mano, Kiyoshi Miyagawa, Katsutoshi Oda, Clinical utility of Today OncoPanel in the setting of approved comprehensive cancer genomic profiling tests in Japan.

Cancer science 2023, doi.org/10.1111/cas.15717

佐藤正恵, 北澤京子, 渡邊清高 さがす・読む・伝える はじめての医学系情報 日本医学出版 2023

2. 学会発表

渡邊清高, 帝京大学医療系学部合同共通科目「地域健康管理学入門」における チームによる合同学修の取り組み: 行動科学・社会科学の教育についての事例提供 (医学教育学会) 2022年12月

Kiyotaka Watanabe, Japanese Perspective on Climate Change in Cancer Care MASCC Education Study Group: climate change subgroup project 2022年11月

渡邊清高, 日本癌治療学会PAL (Patient Advocate Leadership) プログラムの歩みとこれから: 第60回日本癌治療学会学術集会 2022年10月

渡邊清高, 認定がん医療ネットワークナビゲーター相互交流会: 第60回日本癌治療学会学術集会 2022年10月

渡邊清高, 西森久和, 佐々木治一郎, 藤也寸志, 境健爾, 吉田稔, 矢野篤次郎, 片渕秀隆, 相談と連携ニーズに基づくがんのチームケアと 地域連携を推進する教育プログラム開発: 第60回日本癌治療学会学術集会 2022年10月

渡邊清高, 境健爾, 佐々木治一郎, 村上利

枝, 辻晃仁, 藤也寸志, 中島美紀, 西森久和, 野坂生郷, 増田昌人, 源川良一, 南秀明, 矢野篤次郎, 吉田稔, 片渕秀隆, 特別企画シンポジウム2: がん患者のためのチーム医療促進プロジェクト: 第60回日本癌治療学会学術集会 2022年10月

渡邊清高, 佐藤正恵, 北澤京子, 忽那賢志, 新型コロナウイルス感染症に関する書籍の情報評価の可能性と課題: 日本版メディアドクター指標を用いた分析: 第14回ヘルソコミュニケーション学会学術集会 2022年10月

渡邊清高, 森山信彰, 中山千尋, 陸智美, 安村誠司, 放射線健康影響に関するリテラシーを向上する介入プログラムの効果と実効可能性の検討 第2回ヘルソリテラシー学会学術集会 2022年10月

金子一郎, 高田真二, 菊池弘敏, 田中篤, 渡邊清高, 竹内保男, 大久保由美子, オンライン形式で開催された医学部Faculty development (FD)における医師のプロフェッショナルリズムに関する学修成果 第54回日本医学教育学会大会 2022年8月

渡邊清高, 高田真二, 山田昌興, 小尾俊太郎, 河野肇, 時崎暢, 三澤健之, 田中篤, 大久保由美子, C-EPOC (卒前学生医用臨床教育評価システム) 導入期における課題抽出とマニュアル策定による臨床実習の活性化: 第54回日本医学教育学会大会 2022年8月

渡邊清高, PAL退院前模擬カンファレンス 第27回日本緩和医療学会学術集会 PALプログラム 2022年7月

渡邊清高, 西森久和, 牧克仁, 市原香織, 宇野さつき, 野田真由美, 松本陽子, 桜井なおみ, 天野慎介, 梅田恵, 秋月伸哉, 患者アドボケイト・ラウンジ (PAL: 患者参画プログラム) における、ウェブ会議システムを用いた「模擬退院前カンファレンス」の実践とその有用性: 第27回日本緩和医療学会学術集会 2022年7月

渡邊清高, 大塚(片倉)良子, 大野真司, 岡本禎晃, 桜井なおみ, 篠崎勝則, 新小田雄一, 辻晃仁, 西森久和, 松井優子, 安本和生, がん患者のための多職種チームケアと地域医療連携を推進する教育研修プログラムの開発: 第7回日本がんサポーターズケア学会学術集会 2022年6月

陸智美, 森山信彰, 中山千尋, 渡邊清高, 安村誠司, 放射線健康不安について幼稚園教諭が相談対応する時の自信を高めるプログラムの効果 日本衛生学雑誌 77 (Suppl.) S183-S183 2022年3月

渡邊清高, 高田真二, 山田昌興, 小尾俊太郎, 河野肇, 時崎暢, 三澤健之, 田中篤, 大久保由美子: CC-EPOC (卒前学生医用臨床教育評価システム) 導入期における課題抽出とマニュアル策定による臨床実習の活性化 医学教育 53 (Suppl.) 245-245 2022年7月

渡邊清高, 西村久和, 牧克仁, 市原香織, 宇野さつき, 野田真由美, 松本陽子, 桜井なおみ, 天野慎介, 梅田恵, 秋月伸哉, 患者アドボケイト・ラウンジ (PAL: 患者参画プログラム) における、ウェブ会議シ

システムを用いた「模擬退院前カンファレンス」
の実践とその有用性 Palliative Care Rese
arch 17(Suppl.) S. 437-S. 437 2022年7月

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)
なし

